神戸新聞 2026年01月27日 火曜日 面名 朝三社 １３ 25ページ

ＮＩＥワークシート中～高校

無関係装い 連携し拡散

利用者 脅威に気付きにくく

Xに不審なアカウント群

X（旧ツイッター）でうごめく不審なアカウント群が見つかった。表面的にはそれぞれ無関係のように振る舞いながら、実際は連携して政治や社会問題に関する投稿を拡散。交流サイト（SNS）を通じた情報操作が試されている恐れがある。利用者が気付きにくい〝脅威〟にどう向き合えばいいのか。アカウント群が発見された経緯を追い、専門家に対策を聞いた。

（1面参照）

同時に同一内容

きっかけは2025年の参院選と自民党総裁選だった。

当時「ボット」と呼ばれる自動投稿プログラムなどを使った世論介入の懸念が取り沙汰されていた。情報分析企業「ジャパン・ネクサス・インテリジェンス」（JNI）のアナリスト、竜口七彩さんも警戒を強め、SNSの不審なアカウントを日々チェックしていた。

その最中、調査対象をフォローしていた複数のアカウントの名前に、あまり見ない絵文字が共通して使われていることに気付いた。

これらのアカウントは別々の投稿のリポスト（転載）をしつつ、何げない「日常のつぶやき」を自ら発信。調査を進めると、こうした「日常のつぶやき」と同一の動画や文章を、ほぼ同時に投稿していた数十のアカウントが見つかった。

さらに動きを追うと、別の集団とも「同一の動画や文章を、同時に投稿している」という共通点が芋づる式に見つかり、確認されたアカウントは70にまで達した。

転載内容の傾向も分かってきた。外国人に関するものが目立ち、犯罪と結び付けるような文面を広めているほか、政治関連も多く「あの党には期待できない」といった投稿も転載していた。竜口さんはアカウント群について「論争性の高いテーマを中心に取り上げている」と説明し、拡散によって意見の対立をあおる狙いがありそうだと分析している。

予防的措置を

巧妙化していくネット上の情報操作に対し、どう対応していくべきか。

日本国際問題研究所の桑原響子さんは「世論の分断を狙う攻撃者は『情報の空白』を突く」と説明する。空白とは社会の中で解釈が分かれ、人々の不安や怒りが集まりやすい領域で、今の日本では外国人問題や歴史認識が当たるという。

一方、日本は対策を議論する際、攻撃者の特定に力点が置かれやすいが、重要なのは手口や流通しそうな偽情報を予測して社会に周知することや、リテラシー教育といった予防的措置だと指摘。「そうした情報の空白をなくすためには政府だけでなく、テック企業や研究機関、メディア、ファクトチェック団体など社会全体で連携しなければならない」と強調した。

不審なアカウントの投稿イメージ

※分析会社の調査などを基に作成

不審なアカウント群のポイント

- 開設時期は2010～24年、フォロワー数は最大2000人程度
- 全体的に保守的な主張を拡散する傾向がありつつ、自民党批判やリベラル寄りの発信も転載
- アカウント群は、1日平均40～50件を転載
- 所在地は7割が「カンボジア」と表示しているが、実態と異なる可能性も

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1　傍線部のようなアカウントが見つかったのは、何が同じだったからですか。その共通点を2つ、9字と19字で抜き出し、最初と最後の3文字を書きましょう。

9字 □□□～□□□

19字 □□□～□□□

2　不審なアカウントの内容の傾向を説明した1文を本文中から抜き出し、最初の3文字を書きましょう。 □□□

3　不審なアカウントの狙いは何ですか。本文中から11文字で抜き出し、最初と最後の3文字を書きましょう。

□□□～□□□

4　このような情報操作にどう対応すればよいと言っていますか。本文中から44字で抜き出し、最初と最後の3文字を書きましょう。

□□□～□□□

NIEワークシートのこたえ（2026年1月27日公開）

◆ワークシート「組織的にX拡散世論操作(社会)」
2026.1.27付　朝刊　25面　解答

1 (9文字)　あまり　～　絵文字
(19文字) 同一の　～　ている

2 外国人

3 意見の　～　る狙い

4 手口や　～　的措置